

2025 ～ 2026 年度国際ロータリーのテーマ

UNITE FOR GOOD

●会長 堤 勝也

●幹事 草村安宏

 No.1934 令和 08 年 04 月 01 日 第 30 回例会

※例会日 毎週水曜日 12:30～

※例会場 〒860-0846 熊本市中央区城東町4の2 熊本ホテルキャッスル内

※事務所 〒860-0846 熊本市中央区城東町4の2 熊本ホテルキャッスル内 TEL 354-4521 FAX 354-4053

 ※ URL <https://www.serc2720.org> ※ email serc@serc2720.org


よいことの
ために
手を取りあおう

■熊本東南ロータリークラブ創立記念花見例会

日時 令和 8 年 4 月 1 日 (水) 18:30～

場所 花畑御殿「城見櫓」

■例会

司会 SAA 西田智史

18:30 点鐘

場所 花畑御殿「城見櫓」



■会長の時間

(会長 堤勝也)



本日は、創立記念花見例会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

先ほどまでの雨も上がり、今年は例年より桜の開花がやや遅れているとのことでしたが、本日この日に合わせたかのように、美しい景色の中で皆様とこの時間を共有できますことを、大変嬉しく思っております。

まだ明るい時間帯に、こうして桜を背景に例会を開催できる機会はなかなか多くはありません。実は昨日、昼間に会食の機会があり、その後時間ができましたので、熊本城周辺の回廊を歩きながら改めて熊本の景色を眺めてまいりました。

幼い頃から自然と身近に感じてきた熊本の風景ですが、改めて見るとその美しさ、そして誇らしさを強く感じました。

満開の桜を前に、海外からの観光客の方々が喜ばれている姿も印象的で、熊本という土地の魅力を再認識する機会となりました。そうした中で、本日このような素晴らしい場所で花見例会を開催できることは、熊本に根ざす私たちにとっても大変喜ばしいことだと感じております。

さて、私自身の任期も残すところあと3ヶ月となりました。今後大阪や台湾への予定も控えておりますが、最後までしっかりと走り抜けていきたいと考えております。

残りの期間におきましても、皆様とともに楽しく、有意義なクラブ運営を行い、7月には次年度へ円滑にバトンタッチができる

よう努めてまいります。

どうか残り3ヶ月、温かく見守っていただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本日はどうぞよろしくお願いたします。

■ 幹事報告

(幹事 草村 安宏)



花見例会と来週の和歌山訪問などについて

■ 出席報告

(出席・プログラム担当委員長 渡邊俊一郎)



| 月日 | 会員数 | 出席者数 | MU | 修正出席者数 | 出席率 (%) |
|--------|------------------|----------------|----|--------|---------|
| 03月18日 | 休会 | | | | |
| 04月01日 | 38 (免1) 37 | 30 (ZOOM 0) | | | 81.08 |

☆出席免除

04月01日

島村徹男

■ 100%出席者表彰・記念品贈呈

(会長 堤勝也)

■ 30年間 100%出席記念品贈呈

内田信行 会員

■ 5年間 100%出席記念品贈呈

松田和成 会員



◎年間 100%出席者

松本 繁 会員 37年
沼田敏雄 会員 32年
白木誠一 会員 29年

鈴木義親 会員 26年
横山佳之 会員 24年
小畑成司 会員 23年

松本一也 会員 21年
山田公也 会員 14年
福井学 会員 13年

中島祐嗣 会員 9年
宮川義行 会員 9年
松岡泰光 会員 8年

緒方公一 会員 8年
彌富照皇 会員 8年
杉本整哉 会員 7年

草村安宏 会員 6年
片岡貞志 会員 4年
生駒ちあき 会員 3年

井村宜敏 会員 3年
渡邊俊一郎 会員 2年
武末直大 会員 1年

2026年4月1日現在

■ 点鐘

(編集 松尾 浩)

■ 懇親会

司会 親睦・スマイル担当委員会

19:00 開会の言葉

親睦・スマイル担当委員長
片岡貞志



■ 乾杯

会長エレクト 福井 学



■ 歓談



■閉会の言葉

副会長 彌富照皇



■二次会



■滑走路を背に、新たな離陸——

「あり方の発明」で目指す新しいロータリーの形

寄稿者：井上 誠（下妻ロータリークラブ）

寄稿者：田村志朗（福岡エアポートロータリークラブ 創立会長）

チャーターナイト（写真提供：Shiro Tamura）

私たちのクラブは、その名の通り「福岡の空の玄関口」である福岡空港を活動拠点として誕生しました。2026年1月21日、眼前に広がる滑走路と夜景を背景にチャーターナイト（加盟認証式）を開催し、濱野良彦ガバナーをはじめ140名を超える方々に見守られながら、24名のチャーターメンバーと共に新たな門出を迎えました。以来2名の新会員が入会し、現在は26名です。



「どうせ無理」を超えた、新しいロータリーへの想い

私が新クラブの設立を決意した背景には、「社会に貢献したい志ある現役世代が、無理なく参加できるロータリーをつくりたい」という強い想いがありました。

世間では、ロータリーに対して「時間とお金を持って余したご年配の方々の集まり」といった偏ったイメージを持たれることがありますが、本来は「職業人として行動を起こす人たちの集まり」です。しかし、会費の負担や固定された例会時間などがハードルとなり、その本来の姿が社会に浸透しきれていないもどかしさがありました。

「もっと現代に合ったやり方があるはずだ」と動く中で、「今まで通りでいい」「新しいやり方は無理だ」という壁にもぶつかりました。そんな時、私の背中を押してくれたのが、植松電機専務・植松努さんの「どうせ無理」という言葉を世の中からなくしたい。発明のコツは“不便を我慢しないこと”だ」という言葉でした。

現代における「あり方の発明」

この言葉を胸に、不便を我慢するのではなく、やり方を変える「あり方の発明」として、私たちは以下のような具体策を取り入れて新しいクラブ運営を形にしました。

1. 時代に合わせた例会スタイルと会費設定

例会は月2回、11時15分から12時までの「45分間」とコンパクトにし、オンライン参加も可能な柔軟なスタイルにしています。また、あえて「食事なし」としてフードロス削減に貢献。会場への配慮としてドリンク代はお支払いし、希望者のみ例会後にその場で食事を注文して交流を深めています。専従の事務員を置かず、こうした食事代も会費から外すことで、月額会費を15,000円に抑えました。

2. DXを活用した透明性の高い運営

日々の情報共有には、スマホのホーム画面に設置できるアプリ風の「すまっぼん！」を活用。また、入出金管理には「GMOあおぞらネット銀行」を導入しました。任意団体の口座開設が厳しい時代に法人契約を実現できたことで、毎月20回までの振込手数料無料枠や、デビットカード利用による1%のキャッシュバックといった恩恵を得ています。この還元分も奉仕活動費へ回すなど、即時性と透明性の高い運

営を実現しています。

3. 「善意」ではなく「仕組み」としての寄付

会費は抑えています、「安いから入会する」クラブを目指しているわけではありません。無駄な経費を省いて生み出した余力は、社会へ還元する「めぐる奉仕（恩



送り）」に充てています。入会時に会員の了承を得て、会費の中からロータリー財団や米山記念奨学会への寄付（地区の年間寄付目標に基づく）を仕組み化し、確実に積み上がる支援を続けています。

4. あえてこだわる「一業種一社」

昨今、世界的にロータリーの職業分類を緩和・撤廃する動きがありますが、私たちはあえて「一業種一社」に強くこだわっています。これは誰かを排除するためではなく、異業種同士が補い合い、まず互いの事業を強くするためです。同じ業種が競い合う環境からは落ち着いた奉仕は生まれません。互いを高め合うことこそが、長く続く奉仕の土台になると信じています。

5. 空港を拠点とした国際性と地域性の融合

そして何より、福岡空港という特別な立地を活かし、今後は国際性と地域性を掛け合わせた社会奉仕活動を実践していく予定です。空港周辺地域への社会的支援から、世界へ向けた平和推進まで、ここから多角的なアクションを起こしていきます。若者たちは、私が想像もしなかったスピードと発想で「ロータリーの新しい魅力」を創り出し始めました。彼らが事業を大胆に展開してくれた結果、「いけないロータリアン」だった私の会長年度は、地区で数多くの賞をいただく結果となりました。これらは若者たちの情熱と行動力の賜物であると同時に、今までのクラブ会員が多様性を歓迎してくれたからこそ成し遂げられたことです。

飛び立つ仲間を応援する温かさ

この挑戦を進める中で、何より恵まれていたのは周囲の温かい応援でした。福岡東ロータリークラブでの最後の例会（写真提供：Shiro Tamura）



特に、私が以前所属していた「福岡東ロータリークラブ」の皆さまには深く感謝しています。新クラブ設立となれば摩擦が生じてもおかしくありませんが、先輩方や仲間は快く送り出してくれました。私が福岡東ロータリークラブの会員として最後に例会へ出席した日、「新クラブ設立おめでとうございます」というメッセージと共に立派な花束をいただきました。その温かなエールは、今でも私の大きな推進力です。

空港という場所は、人や文化が交差し、誰かの挑戦が静かに始まる出発点です。私たち福岡エアポートロータリークラブも、誰もが参加しやすい環境の中で、多様な人材が集うハブでありたいと願っています。まだ離陸したばかりの私たちのフライトを、皆さまに温かく見守っていただければ幸いです。